Infectious Diseases Weekly Report
IDWR HIROSHIMA City
2017年第35週（8月28日～9月3日）

広島市感染症週報

広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター

■コメント

1. RSウイルス感染症

定点当たり4.13人の報告があり、前週の1.8倍に増加しました。また年齢別では、1歳以下の報告数が全体の75.3%を占めています。

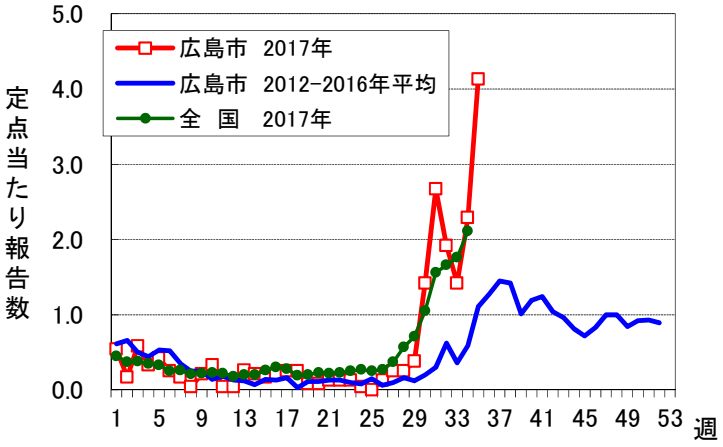
RSウイルス感染症の症状は、軽いかぜのようなものから細気管支炎や肺炎などの重篤なものまでさまざまですが、生後数カ月までの乳児が初感染した場合は重症化しやすいため、感染を避けるための注意が必要です。

引き続き、咳エチケットや手洗いの励行、おもちゃやてすりなどはこまめに消毒するなど、感染予防対策を徹底しましょう。

2. インフルエンザ

定点医療機関から21人（定点当たり0.57人、迅速診断キットA型陽性：20人、B型陽性：1人）の報告がありました。

RSウイルス感染症の流行状況



【参考】厚生労働省「RSウイルス感染症Q&A」
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html

■定点把握感染症報告状況（週報対象）

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均（注）	発生記号
インフルエンザ	インフルエンザ	21	0.57	－	
小児科	咽頭結膜熱	8	0.33	0.58	
小児科	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38	1.58	0.84	↗
小児科	感染性胃腸炎	97	4.04	3.69	→
小児科	水痘	6	0.25	0.38	↓
小児科	手足口病	56	2.33	1.57	↘
小児科	伝染性紅斑	2	0.08	0.19	
小児科	突発性発しん	5	0.21	0.49	
小児科	百日咳	－	－	0.06	
小児科	ヘルパンギーナ	23	0.96	0.80	→
小児科	流行性耳下腺炎	1	0.04	0.50	
小児科	RSウイルス感染症	99	4.13	1.11	↗
眼科	急性出血性結膜炎	1	0.13	0.03	
眼科	流行性角結膜炎	3	0.38	1.10	
基幹	細菌性髄膜炎	－	－	0.03	
基幹	無菌性髄膜炎	－	－	0.17	
基幹	マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.40	
基幹	クラミジア肺炎（オウム病を除く）	－	－	－	
基幹	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	－	－	／	

急増減	↑ ↓	前週と比較しておおむね1：2以上の増減
増減	↗ ↘	前週と比較しておおむね1：1.5～2の増減
微増減	↗ ↘	前週と比較しておおむね1：1.1～1.5の増減
横ばい	→	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数（小児科定点を含む）	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

（注）過去5年間の同時期平均（定点当たり）

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	1	99	男性（70歳代）
3	細菌性赤痢	1	1	女性（10歳未満）・推定感染地域：国外
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	8	女性（10歳代）・O157
5	梅毒	2	46	男性（30歳代）・1人、女性（40歳代）・1人

■定点把握感染症報告状況（週報対象）の推移

			インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎（ロタウイルス）
報告数	広島市	第31週	－	12	49	92	7	132	－	13	－	19	－	64	－	7	－	－	－	－	－
		第32週	1	5	21	59	9	96	－	7	－	25	1	46	1	9	－	1	－	－	－
		第33週	1	6	34	79	15	73	3	10	－	14	1	34	－	7	－	－	－	－	－
		第34週	－	7	33	98	20	83	－	9	－	21	3	55	2	6	－	1	－	－	－
		第35週	21	8	38	97	6	56	2	5	－	23	1	99	1	3	－	－	1	－	－
定点当たり	広島市	第31週	－	0.50	2.04	3.83	0.29	5.50	－	0.54	－	0.79	－	2.67	－	0.88	－	－	－	－	－
		第32週	0.03	0.21	0.88	2.46	0.38	4.00	－	0.29	－	1.04	0.04	1.92	0.13	1.13	－	0.14	－	－	－
		第33週	0.03	0.25	1.42	3.29	0.63	3.04	0.13	0.42	－	0.58	0.04	1.42	－	0.88	－	－	－	－	－
		第34週	－	0.29	1.38	4.08	0.83	3.46	－	0.38	－	0.88	0.13	2.29	0.25	0.75	－	0.14	－	－	－
		第35週	0.57	0.33	1.58	4.04	0.25	2.33	0.08	0.21	－	0.96	0.04	4.13	0.13	0.38	－	－	0.14	－	－
	全国	第33週	0.14	0.49	0.93	2.71	0.23	5.54	0.05	0.37	0.01	1.19	0.38	1.76	0.01	0.85	0.03	0.06	0.29	0.01	0.01
		第34週	0.12	0.45	1.14	3.28	0.21	5.87	0.07	0.45	0.01	1.54	0.39	2.11	0.02	1.07	0.02	0.06	0.26	0.01	－

■新たに判明した病原体検出状況

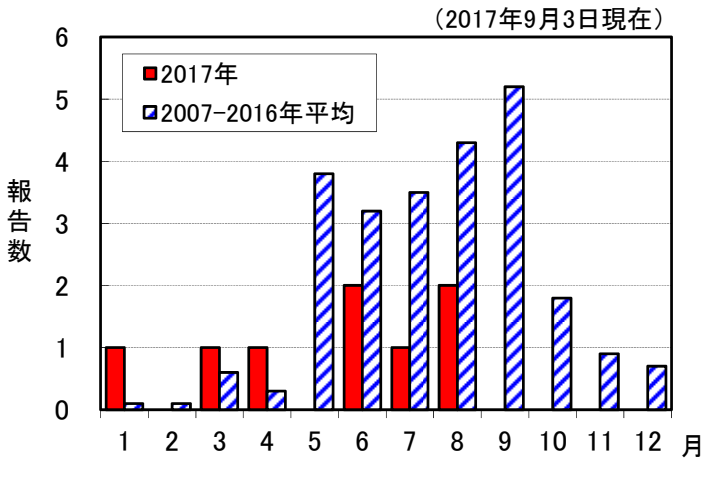
（検査：広島市衛生研究所）

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
その他の呼吸器疾患	発熱(39.9) 上気道炎	1	男	2017/07/19	咽頭拭い液	ｱﾃﾞﾉｳｲﾙｽ1型
その他の消化器疾患	腸重積	3	男	2017/07/24	糞便	ｱﾃﾞﾉｳｲﾙｽ2型
その他の消化器疾患	下痢	2	男	2017/07/25	糞便	ｱﾃﾞﾉｳｲﾙｽ3型
その他の発疹性疾患	発熱(39.0) 紅斑 リンパ節腫脹	3	男	2017/07/15	咽頭拭い液	ｺｸｻｯｷｰｳｲﾙｽB2型
その他の疾患	発熱(39.8)	0	女	2017/07/21	鼻汁	ｴｺｰｳｲﾙｽ25型

＊感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

★ 腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう！！

腸管出血性大腸菌感染症の月別報告数（広島市）



第35週に1件の報告があり、今年の累計は8件となりました。

腸管出血性大腸菌は、感染力が強く、汚染された食品を食べたり、患者や保菌者の汚染された手指を通して二次的に感染します。特に、乳幼児や高齢者は重症化しやすいため、注意が必要です。

予防のために、次のことに特に注意しましょう。

●食材や調理器具は十分に洗浄し、手洗いを励行しましょう。

●食品は長時間室温に放置せず、冷蔵庫や冷凍庫に保存しましょう。また、肉・レバーなどは中心部まで十分加熱し、生食は控えましょう。

●オムツの取り扱いには十分注意しましょう。

【参考】厚生労働省「腸管出血性大腸菌について（予防のための対策など）」
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/shokuhin/syokuchu/daichoukin.html

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。
なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。
URL http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html

【問い合わせ先】
広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所　〒733-8650　広島市西区商工センター四丁目１番２号
TEL(082)277-6575　FAX(082)277-5666　E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp